



誠・力・光

平成29年9月1日
練馬区立北町中学校
学校だより 2号

二学期
スタート

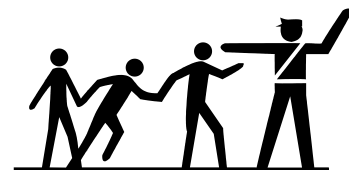
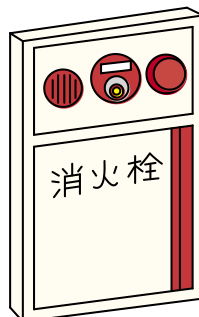
『天災は忘れた頃にやってくる』

校長 赤木 宏行

9月1日（金）第2学期始業式。そこには308名の元気な北町中学校の生徒の姿がありました。私たち学校の教員にとって何よりも嬉しいことです。真っ黒に日焼けした生徒達の顔には、この長い夏休みの間、学校や家庭そして地域で元気一杯に活躍していた様子がうかがえます。その勢いで2学期も活気のある学校生活にして欲しいと思います。

さて、9月9日の第二土曜日に練馬区では震度6弱を想定した避難訓練を実施します。平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災は、神戸を中心とした都市を直撃し、一瞬のうちに5千5百人を超える尊い命を奪いました。また、平成23年3月11日の東日本大震災では、15893人の尊い命が奪われ、いまだに2553人の方が行方不明と言われています。この尊い命を引き替えにした教訓は決して忘れてはならないものですが、「喉元過ぎれば・・・」の言葉の通り、本校の生徒の意識の中に非常災害に対する危機感が薄れていけば、その気持ちの表れが避難訓練の姿勢にも出てしまうものです。危機感の希薄化は中学生だけではないと思います。そんな時だからこそ『天災は忘れた頃にやってくる』を心構えにして、災害に対する意識を見直していく必要があると思うのです。本校でも定期的に様々な場面を想定して避難訓練を実施しています。真剣に訓練をしなければなりません。もし、大規模の地震が東京の学校の授業中に起こったらと考えると、いい加減な気持ちで訓練をしてはいけないということは誰でも思うことです。人の命は地球よりも重いのです。どんなことが起ころうと人間の命に勝るものではありません。人の命を守ることがもっとも大切なことなのです。

不幸にして、この夏休み中にも全国の山や海・川やプール等で若い命が失なわれています。基本的に自分の命は自分で守ることが大切です。自ら正しく判断し、適切に行動できるよう避難訓練等で普段から心の準備をしておくことが必要です。更に大切なことは、災害にあった時に、人と人との心の通った温かい助け合いの姿です。天災は忘れた頃にやってくるのです。天災は防ぐことはできません。しかし、災害の被害を人の力によって小さくすることはできます。私は、北町中学校の生徒一人一人にこの温かい心をもって欲しいと願っています。



今年の夏休み

1学期が終了する頃は、とても暑く「今年も猛暑の夏！」と誰もが感じたはずです。待望の夏休みに入ったとたん、曇りがちの日が続き、8月は梅雨のように雨の連続でした。暑さの中、練習した阿波踊りも当日は雨で、不参加となり残念でした。

8月とは思えない夏休みでしたが、生徒たちは部活動や学習教室等、それぞれ目的をもって生活を送っていました。更に、今後の生活に繋げていってくれるものと期待します。今回この夏行われた岩井臨海学校・リトルティーチャー・海外派遣の様子を紹介します。



リトルティーチャー



岩井臨海学



私はリトルティーチャーを通して教える難しさを感じました。自分はわかるように教えたつもりでも、相手はわかっていない事もあるから、相手に問いかけながら相手のペースに合わせて進める事が大切だと思いました。小学生だけでなく、自分のためにもなった良い経験となりました。

3-2

・あまり知らない他のクラスの人とも仲が深まったと思うので、いい機会だったと思います。リタイアする人が一人も出ないで終わったので、良い臨海学校だったと思います。

1-1

・水泳練習を海でしたときは、波がすごく荒くてとても不安でしたが、本番の3日目には、波がうそのように弱くなっていてびっくりしました。そして、最後まで泳げてうれしかったです。

1-2

・ぼくは、この臨海学校で室長になり心配でしたが、班のみんなが協力してくれ、うまく室長ができました。なにより遠泳で全員が完泳できてよかったです。

1-3



海外派遣(オーストラリア)

・自分は、海外に行くことが初めてで出発前は、どんなホームステイになるのか想像もつきませんでした。しかし、ホストファミリーに会うととても優しくな人で安心しました。英語は無理に文法にこだわらなくても単語だけで伝わりますし、単語がわからなくてもジェスチャーをすれば相手が察してくれます。是非、来年の派遣に積極的に立候補してみてください。

3-1

・私は今回の海外派遣、とても楽しみでしたが、初めての海外で英語だけの生活に不安もありました。しかし、オーストラリアに行って実際に生活すると、クラスメイトやホストファミリーが優しく接してくれたので、不安はすぐなくなりました。そして一週間という期間もあっという間に終わってしまいました。私はオーストラリアで充実した日々を過ごすことができました。

2-3